

第10回 3D教育研究会

『3D教育研究会 第10回記念基調講演』 開催レポート

第10回目となる3D教育研究会

「学校改革の考え方とエゴグラム・グループコミュニケーションの導入について」
をテーマに開催



2010年2月13日（土）、東京都文京区本郷にある東洋学園大学の会議室にて、第10回3D教育研究会が開催された。今回も15校を超える学校および学校関係者が多数参加。

第1部は3D教育研究会の会長である順天中学校・高等学校副校長の片倉敦先生に、第10回記念基調講演として「学校改革の考え方とエゴグラム・グループコミュニケーションの導入について」講演をいただきました。順天中学校・高等学校の2回の改革が成功した理由とこれからの取組みが良くわかるように説明されました。出席の先生方は非常に盛大な感銘をうけられました。その後、意見交換としてアンケート集計報告（東京学園・高野淳一先生）と各学校の3D教育プログラムの活用状況を発表され充実した時間となりました。

講演会

順天中学・高等学校 副校長 片倉 敦先生



本校は2回程改革をしているのですが、前期の改革と後期の改革は色合いが全然違うものですので、その辺りの説明もさせて頂きながら、その中にこのグループコミュニケーションとエゴグラムの導入についての考え方、学校改革の考えの中に入っているという事をご理解頂ければと思います。

昭和63年当時、教務部長となったのを期に進学についての改革をする事になりました。それ以前の改革というと最初は全人教育でした。どんな事かという、全校清掃、ブレイクタイム、BST等簡単な事を継続してやり、勉強だけではなく人間性を身につけるといった事をやっておりました。現在でも本校の底辺に生きている事で良い改革だったと思います。しかしながら、それだけやっても進学は出来ないじゃないかと私は思っておりました。そこで、類型性というスタイルを取り入れ1類(普通コース)と2類(進学コース)を作りました。この頃は少し生徒も増えていた時期(団塊ジュニア世代)で、幸いに募集状況も割合良かった時期でしたので、少し切り上げを行いました。類型を変える事で偏差値を上げていく方法を取ったわけです。

- 類型を作って進学体制を整えた
- サテライト講座の導入
- SI(スクールアイデンティティ)の導入

進路指導は啓発的指導と開発的指導。啓発的指導というのは、本人の希望しているものの方向性を変えるぐらいの気持ちで面談を繰り返していき、より高いところを目指そうということ。開発的指導というのは怒ってばかりいては駄目だということ。たまには褒めてあげて生徒のやる気を出させる。このあたりにグループコミュニケーションの考え方が関係してきます。大枠でこういった試みを平成10年に取り入れて、これらを全面的に出していく第2の改革を行いました。



第1の改革は構造を変えていくものでした。それに対して第2の改革は中身を変えていきました。結局中身を変えないと今のご父母の要望には応えられないなど。考え方をしっかり持ちましょうという事を考えました。どういう事をやったかといいますと、予習テストをやって授業をやりまします。その一週間の授業に対して復習テストというのを翌週の週はじめにやるのです(国語・英語・数学)。それで、この小テストの点数が70点未満の場合には週末にリピート学習を行う。合格しても少し点数が足りない場合は、もう一度その試験をやり直させ、再提出やノート提出という事もやりまします。70点未満の人は放課後に残してまでやる。再度テストを何回もやって70点以上採れたら合格と。つまり、落ちこぼれを作らない。

学校生活の中で何が一番大切ですかと聞くと、日本の場合「友だち」なんです。帰国子女で色々な国から来るのですが、日本みたいに友人の事を気にする国は無いと一様に言います。日本人はもの凄く友だちのことを気にするのです。要するに人と比べたがる。良くも悪くも人と比べるのが日本人の特性なのです。本当に一番良いのは充実思考で学習自体が楽しいと。ただ、こうやって勉強している生徒は稀で、塾に通っている子は報酬志向が多いんですね。順天の生徒はというと関係志向が多いんです。友だちがやっているから、友だちが勉強しているからみたいな。充実志向や、実用志向が本当は一番良いのです。だから関係志向というのは、友人の意見を凄く重要視するということなんです。よってエゴグラムというものがあるのです。何故かという、グループコミュニケーションの中で凄く人の意見を重要視します。私たちがいくら言っても駄目です。いじめなんかもそうで、いじめられている方が悪いと。ところが、グループで話をさせて本当にその子が悪いのか訪ねると、最初のうちは意見を変えないが、うまく話を進めていけばそうじゃない意見も必ず出てくる。その一言で雰囲気ガラッと変わるんです。それがやはり大事なんだということが分かってきました、他人志向の子が多いので、グループの中での話し合いというものが非常に重要視してくる。だから、グループコミュニケーションみたいなものを導入しないと、いくら私たちが頭から言っても駄目なんです。その関係志向をうまく利用していくというのが、私たちの考えなんです。



本校の考え方は、コミュニケーション能力を身につけるという事。それはリーダーを育てる、すなわちフォロワーシップを育てなければいけない。要するに弱い人の気持ちが分かる、そういう生徒を作らなければならない。人の事を思いやる気持ち (NP) を高める教育が実は私学には求められているのではないかなと思います。あとはボランティア教育。ボランティアを実際にさせていく、実際に自分が弱い人のために何ができるか、人のために何ができるか。人のために何かをした時に本当に自立するのだと思います。親が子供に何かしたいなと思った時に本当に親は自立するのだと思います。現在この社会というのは、孤立と依存の社会なのです。そういう人を育てているのは誰なのかという、やはり学校なのです。本校としては出来るだけ依存体質を取る、そのために人に何かをしてやれる、社会に貢献できる人間を育てようと考えています。もう一つはコミュニケーション能力のとれる人間を育てていかないと、孤立と依存のスパイラルに陥ってしまう。それが社会にとって悪い事ではないかなと思います。

意見交換会「各学校における3D教育プログラムの活用状況」

東京学園高等学校 進路指導部長 高野淳一先生



今回のテーマは各学校における3D教育プログラムの活用状況です。特に道德教育、生活指導というものにテーマをしぼってみました。

例えば私どもの学校では、私が進路指導の担当になったという事もありまして、進路指導部が主体となって活用することになりました。ですので進路学習ですとか進路意識を高めていくといった事を主体として始めたという経緯があります。ただ、個人的な考えを言いますと必ずしもそれだけでは無いなど。むしろそれ以外の部分もかなり効果が高いのではないかと感じております。確かにこの教育プログラムの中の自己理解を深めるですとか自己表現の力を付

けるですとかは、直接進路学習に関わってくるものもあります。ただ、最近生徒を見てまして所謂、生きる力というものが乏しくなっている。そういう部分を感じます。生きる力と言っても色々ありますが、端的に言うと社会性、社会のルールあるいは人付き合いのマナーがなかなか身に付いていない。そういう状態で生徒を受け入れるという事が多くなっている気がします。グループコミュニケーションの教材の中には、自分を広げて色々な人の意見を聞きながら、他社を受け入れるような自分の器を大きくする。そういう効果も今もありますので、今の生徒達にはこういったものが必要なのではないかと思います。

今回、頂戴したアンケートをまとめる作業をしております、私なりに考えた事なんです、やはりこのグループコミュニケーションというものは教材も良く出来ていますが、さらに磨きをかけるのは現場の工夫、先生方のこまめな改善の努力なんだと思いました。やはりそれぞれの学校の文化というものがありますから、学校文化に合った形で工夫、実施、取り入れて実行していく。こういうことが必要なんだと思いました。また、これからの課題というのも前半部分に出ましたように、コンスタントに実施が出来ている学校となかなかそこまでの取り組みが難しい学校というのがあると思います。本校もまだ中途半端な形でしか実施が出来てなくて、もう少しちゃんとやりたいという気はあるのですが、出来ればカリキュラムの中に組み込んでコンスタントな形で実施をしていく事が内容を高めるためには良い方法なのかなと思いました。最後にもう一つなんです、このグループコミュニケーション、自分の学校の中でだけでやっていると、息詰まる感じも出てきてしまいます。マンネリ化してしまうとか、そういった点を打破するためにも、他校で実施をされている所にちょっと覗かせてもらおうですとか、または逆に自分の学校でやっている事を公開して他校の先生から見て頂ける。公開授業は嫌がる先生も多いのですが、こういう事をやることで、自分の学校の中に新しい風が入ってくるのではないだろうかと思います。お互い勉強する機会等があればもっと良いなと思います。

懇親会



懇親会場にて撮影した参加者全員での記念撮影（写真上）



出来る・大丈夫・大成功

3D 教育研究会

2010. 2.13 第10回 3D 教育研究会 in 東洋学園大学

株 式 会 社 K A 教 育

〒173-0012
東京都板橋区大和町 12-12
03-6784-7675